

おすすめ！新着本



オードリー・タン 自由への手紙  
 オードリー・タン／語り  
 ケー・J・ジヤン編集チーム／編  
 全国民に3日でマスクを届けるシステムをつくった台湾の最年少IT担当大臣。日本の若者に向けて送る、自由になるためのメッセージ。  
 (講談社)



5回で折れる かざれる! あそべる! おりがみ (1) 妖怪  
 いしかわ☆まりこ／作  
 5回折ればできあがり! 雪女や魔女、節分の「鬼」などかわいい妖怪の折り方を紹介します。折り紙ができればさっそく飾ってみよう!  
 (汐文社)

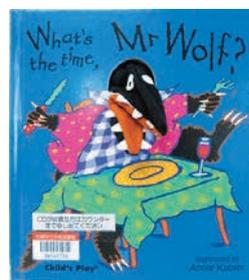
※掲載の図書が貸出中の場合は、図書館で予約できます。

【2月のおはなし会】

- ◆こども図書館(午前10時30分～)
  - 6日(土) おはなし玉手箱
  - 18日(火) ひよこのおはなしかい
  - 20日(木) むかしむかしのおはなし会
- ◆中央公民館(午後2時30分～)
  - 13日(土) おはなしフレンズ

こども図書館「えいごの絵本」特集

「むずかしそう」と思いがちな英語に、絵本を通してふれ合ってみよう。付録CDがついている本なら、発音のしかたも確認できます。



▲左から左巻の三巴文軒丸瓦(般若寺)、梵字を施した軒丸瓦(前峰廃寺)、石守寺の瓦

時の記憶

シリーズ 183

「中世の瓦」

圖文化振興課(支所)

Tel 43-1111 (内線 1324)

今回はこれまであまり触れられてこなかった中世の瓦を紹介します。  
 まず、般若寺で出土した左巻の三巴文軒丸瓦を紹介します。巴文を施す瓦は平安時代の終わりごろから葺かれ始めます。般若寺は土浦市穴塚にある古刹です。律宗僧である忍性が筑波山麓に極楽寺を開き布教を行って以降、鎌倉時代後半にかけて本格的に整備されました。

次に紹介するのは梵字を施した軒丸瓦で、つくば市の前峰廃寺跡で確認されました。梵字とは古代インドの文字で一つ一つが仏様を表しているそうです。昭和54年(1979)刊行の『茨城県史研究』43巻で高井悌三郎が紹介した中世瓦の中に前峰廃寺出土とされた軒丸瓦が掲載されており、これまで唯一知られていたものです。今回廣瀬コレクションで確認されたものが大変貴重な資料ということになります。

最後に「松田 石森寺」と注記された瓦を紹介します。この石森寺は現在の桜川市の石守寺のことと考えられます。石守寺は廃寺となつていますが仏像が桜川市指定文化財となつています。確実に石守寺と分かる中世瓦はこれまで類例がなくやはり貴重な資料といえます。

「廣瀬栄一コレクション 瓦編」

開催日/令和3年1月6日(土)～3月28日(日)

場所/ふるさと歴史館(石岡小学校敷地内)

開館時間/午前10時～午後4時30分

(月曜休館・月曜日が祝祭日の場合は翌日)

# 文芸いしおか

## 俳句

### いしおか俳句同好会

冬筑波見上げて叩く荏胡麻かな  
着ぶくれて影踏みごっこ昭和の子  
枯菊に重ねし老いの行く末を  
目の届く限りの紅葉生き急ぐ  
蓑虫の必死に暇を潰しをり

岡野 はつ子 (小幡)  
小池 さき子 (高浜)  
福田 泰夫 (東光台)  
野村 畝津子 (北府中)  
小池 つと夢 (貝地)

### やさ俳句会

ひとすぢの冬日を得しや董草  
終の地に天寿を希ふ冬の月  
着ぶくれて老いの命を守りけり

馬場 小零 (片岡)  
越智 旅舟 (太田)  
荒井 栗山 (山崎)

## 川柳

### いしおか川柳会

告白の過剰包装チヨコレート  
もう一度触ってみたい母の肩  
老夫婦あれこれこれで日が暮れる

石塚 芳華 (石岡)  
岡野 はつ子 (小幡)  
小川 義隆 (大増)

## 短歌

### 石岡短歌同好会

眠れぬ夜起きてしまえば星月夜オリオン仰ぎ朝刊を取る  
日々進む光免疫療法はがん病む人の明日の力に  
霜月も半ば過ぎれど「天上の青」とふ西洋朝顔靑空に咲く

若色 茂 (山崎)  
西村 静江 (茨城)  
山口 はま子 (山崎)  
あさかほ

## 俚謡 (都々逸)

### 石岡俚謡会

あれもこれもと 終活支度 腰の塩梅 見て仕舞う  
夢を折り込む 丑年生まれ 千支は七回 巡る春  
塩が吹いてる 新巻鮭も 今は昔の 贈り物  
人の心も 料理の味も 塩が決め手の 匙加減  
年を越す前 コロナ禍疲れ 宿のお風呂で リフレッシュ  
波乱万丈 令和の二年 コロナのりこえ 冬を越す  
巡る季節を 俚謡に詠んで 今年締め繰る 大晦日  
勝てば優勝 秘策を胸に 力士最後の 塩を撒く  
財布軽けりや 心も寒い 不況風吹く 年の暮れ

小川野 蛙 (府中)  
石塚 芳華 (石岡)  
坂下 蜻蛉 (国府)  
田村 こまくさ (鹿の子)  
前島 節子 (川又)  
暁 夢華 (総社)  
福田 泰夫 (東光台)  
惣野代 英子 (東石岡)

## 投稿作品

折るほどに紙に生命や冬日和  
太閤の愛でし侘助ふたつみつ  
月白し冬日は山に暮れ急ぐ  
今も忘れぬ 初恋の君 會て登った 筑波山

森田 愛子 (石岡)  
宮内 厚子 (正上内)  
川崎 夫久 (真家)  
赤津 貞行 (石岡)

## 第29回 太々神楽保存会

太々神楽保存会は、柿岡に鎮座する八幡神社の大祭(旧8月15日)に神楽を奉納する会です。この太々神楽は、拍子の音色から通称を「じゃかもこじゃん」とも言い老若男女より広く親しまれています。午後7時から始まる神楽は、深夜12時近くまで続きます。中秋の名月を眺めながらの舞には神々しさも感じます。十二神楽の舞の間には、8歳~10歳の女子4人からなる神子之舞が入り、厳格な神楽に花を添えます。幼いながらに可憐に舞う姿には心奪われます。

## 文化協会だより

保存会が中心となり、代々受け継がれてきた神楽を次世代へ繋いでいきます。  
会員数：26人 TEL 43-0084 (木村)



※1月1日号の通算回数が26回となっていました、28回の誤りでした。お詫びして訂正いたします。